



地区広報

おやまだ

第 17 号

平成9年3月10日



秋晴れの地区運動会 町別リレーに大声援

歓声が秋空にこだまする。

第二十三回、小山田地区運動会が平成八年十月十三日、小山田小学校校庭で約二千人が参加して開かれました。

幼児のはたとりや借物競走、お昼には鼓笛隊の演奏やグラウンドゴルフ、お楽しみ抽せん会も行われました。

最後の町別リレーでは選手と観客が一丸となり、声援にも力が入り大盛況でした。

〔写真は町別リレーのスタートです〕

おもな内容

- P
- 2・3 特集・余暇と生きがい
- 4・5 おやまだあれこれ
- 6 歴史探訪②
- 7 奈良少年院を訪ねて
- 8 この人尋ねて・他

特集

余暇と生きがい

生きがいは個人、個人みんな違います。無理のないように自分に合った楽しい生きがいを見つけるべきです。自分の好きな事、得意な事で趣味とかスポーツを増やし、同じ趣味の人との交流を通じて仲間づくりを行い、楽しい人生を送りたいものです。

そして長生きして良かった、素晴らしい人生であったと思える世の中になればと思います。そこで5人の方に生きがいについて語っていただきました。

心の持ち方で楽しい人生を

山田町 須藤ふさ子



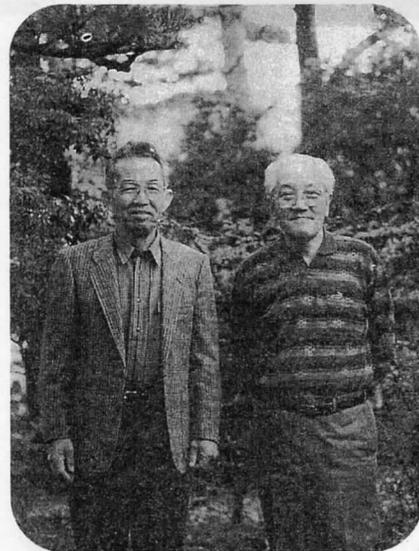
人生七十年、戦中戦後の食糧難時代を乗り越え今日に至りました。敗戦時の苦労は現代の人には想像もつかない毎日でした。今は社会福祉も充実し本当に幸せな時代だと感謝しています。主人が亡くなつてから今年で十七回忌を迎えますが、去りし日は早く夢の様に過ぎ去りました。息子もお嫁さんをもらい、孫も二人でき早や三年生と五年生に成長しました。

私も自分の健康が続く限り、週一回おどり・カラオケ、月一回の園芸クラブで菊作り及びお寺詣り等いろいろなことをしていきますが、これも健康とポケ防止のためだと思つて一生懸命に毎日を楽しみにしております。人生は晴れの日もあり雨の日もありますが、私は人生の生きがいは自分自身の心の持ち方だと思つて、ほがらかに毎日元気におくる様努力しております。「あえて良かったこのいのち」の言葉があります、人生一寸先はヤミですので、私も氣をつけている様に致します。

又、これからも余暇を利用して皆さんと楽しく過ごし、地区のイベント「小山田ふれあいフェスティバル」にも参加して、地域の為に役立ちたいと思います。

良い友で生きがいを

内山町 矢田 哲



友人と共に

国の福祉政策のお陰で元氣な長寿の人たちが増え、皆さん生き生きと生活されています。そして心の問題すなわち生きがいについて、巷で取りざたされる様になり、当地もこのテーマが選ばれました。生きててよかった、しかしそんなの長くは続かない。いろんなトラブルが発生して、苦勞したただけだったと思痴が出て、この世は「苦の土」などと言う人が出て来ます。しかし苦勞は心の持ち方かと思ひます。

物事を良い方へ感じて生きたいと思ひます。先ず大切なのは「良い友達を選ぶ」のが一番、何事もこの世は人間関係が源だから、人を見る目がその人の一生を左右すると思ひます。出合いの大切さが必要なわけです。人を見る目がその人の生きがいを左右します。「人は善悪の友による」又、余暇とは人生の旅路を振り返る、峠の茶屋での一服のお茶だと思ひます。現代流に言えば充電すなわち時々立止まって、心も体も一息入れる時が余暇と解釈しています。良い事ばかり勿論ないし、又悪い事ばかりでもないの、前向きに自分の目で自分の責任で、生きる事こそ大事かと思ひます。数々の苦勞に耐えた日々を今は生きがいの肥やしとして生活していきたいと思ひます。

第二の人生を楽しく

山田町 今村 武俊

勤勉を美德とし、仕事が生
きがいという勤労意識も、近
頃は趣味や余暇を楽しむこと
で充実感を感じる傾向へ変っ
てまいりました。

一昨年サラリーマン社会か
ら引退した私は、高齢者社会
に迎えられ、第二の人生を歩
んでおります。現役で職につ
いてるときから老人クラブ
活動には参加していましたが、
退職後は更に諸活動への
参加度合を深めております。

ときたま「毎日が日曜日」の
生活を羨ましく思うことはあ
りますが、この老年期を人生
の充実した時期と考え、明る
く健康な生き方を求めています
たいと思っております。

人生八十年時代とは言え、
男性の平均寿命を踏まえると、
私の第二の人生はあと八年程
の試算となり実に心細く感じ
ますが、逆にこれを青春期と
考え、今後の人生を謳歌した
い気持です。



近頃は「物の豊かさ」に代
えて「心の豊かさ」を求めら
れます。温かな人間関係、良
き近隣関係、地域性に富んだ
生活文化等、潤いのある環境
づくりに努めたいと思います。

また老いを防ぐため、何事
にも興味をもち、知的好奇心
を失わないで、人生を前向き
に楽しく生きたいと念願して
おります。

生きがいをみつけて

鹿間町 酒井 美枝子



今まで日々の生活に追われ
あまり先の事を考える余裕が
なかったように思います。

今回「余暇と生きがい」の
特集という事で、考える機会
をいただきました。
今までの私は、子育て・主
婦業に追われ「何かできたら
いいな」と思う程度で生活し
てきました。でも子供が独り
立ちした時の事を考えた時、
やはり何か生きがいを見つけ
て生活していきたいと思うよ
うになりました。

私の身近でも、いろいろな
楽しみを見つけていらっしや
る方がたくさんいます。
主人の父は、数年間老人会
の役員をさせていただき、人

と接する楽しみ、人生の張り
合いを見つけたような気がし
ます。役員をやめた今でも、
とても元気で毎日を過ごして
います。又、母はおどり・水
墨画・カラオケ等、楽しみな
がら忙しい毎日を過ごしてい
ます。やはり好きな事を楽し
んでやれる事が、これから先
生きがいを見つけて生きてい
ける事だと思えます。

今私の中にも漠然とですが、
これが生きがいになればいい
なと思うことがあります。
今はまだ夢ですが、いつか
その夢が叶い、そしてそれが
生きがいになるよう、頑張っ
ていきたいと思っております。

バレーボールで充実した日々

堂ヶ山町 平山 たかよ

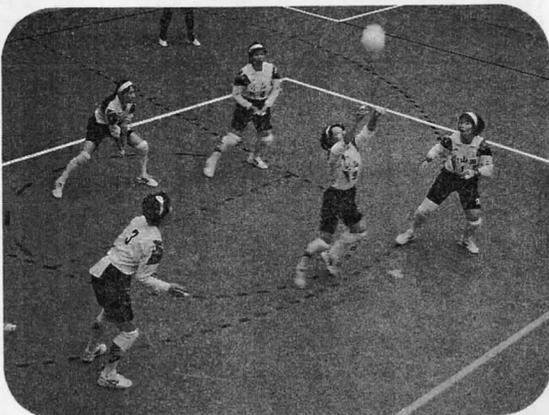
余暇という字を見ていると
余っている時間とか、暇な時
間というイメージがある。

勤め人ではない私は、時間
をほとんど拘束されないのだ
が、それでもなかなか忙しく、
何をしようかと考えなければ
ならないような、あいている
時間はない。
やろうと思えば仕事はいく
らでも涌いてくる。

それを手早く片付け、時に
は手を抜き、時には見て見ぬ
振りをして、好きなバレーボ
ールをする為の時間を作り出す。
私にとって余暇とは、ちょっ
と強引に作り出した時間なの
だ。イコールと
ても貴重な時間
でもある。

バレーボール
をしている時に
は、雑事は一切
忘れ、一心にボ
ールを追いかける。
上手下手は別
として、とにか
くボールに集中
する。

自分の限界に
挑戦していく、
今日はよく動け
たなあとか、思



バレーボールの試合にて

うような動きが出来なくて、
自分に腹立たしさを感じる時
もあり、ストレス解消なのか、
ストレスを積もらせているの
かわからない時もある。
それでもバレーボールをし
た後の爽快感は何とも言えな
い。こんな素晴らしい時間が
持てることを家族の協力のお
かげと感謝し、生きがいを持
つことにより、より充実した
日々を送ることができるとい
う。これからも一日でも
長くバレーボールを続け、健
康で前向きに生きていきたい
と思う。

山田町の秋祭り

第二慶寿会 矢田 清

加富神社の十月十日の例大祭(秋祭り)には、町民挙げて大祭行事に参加します。

午前中の式典が終ると、自治会を中心として、諸団体が小山田老人ホームの中庭に集結し、小山田子供鼓笛隊のセレモニーの後、消防団の車の先導で鼓笛隊、厄年(四十二才)の神輿・子供神輿・花車等の行列が加富神社まで盛大に行なわれ、参加者は数百人に上ります。



あれこれ

移動天文車「きらら号」

子供育成者会 矢田 節 男

市が七月に導入した、移動天文車「きらら号」による出張観望会を、八月七日西陵中学校で行いました。

当日はあいにくの曇り空の中、九十名の親子が参加、星座板の見方を教わりました。

そして天文車の中に入り、楽しみにしていた大きな望遠鏡をドキドキしながらのぞくと「まっ暗」。何か見えないかとみんな真剣そのもの。でも星を見ることはできませんでした。

今回は残念でしたが、い



かきらきら輝く星空ロマンを見れる日を願っています。

介護者懇談会

民生児童委員 豊住 久美夫

民生児童委員会は十月十八日地区市民センターで、寝たきり老人・重度障害者・痴呆性老人等の介護をしておられる方々の、懇談会を開催し



した。日頃の苦労話や行政への要望、社会福祉施設の利用方法等情報の交換を行い、大変有意義な懇談会でした。

敬老芸能大会

鹿間慶寿会 石田 忠 義



鹿間町では、毎年九月に自治会の主催で鹿間敬寿会を招待して芸能大会を行います。新舞踊・カラオケ等の催しとご馳走でもてなしをして、皆さんにたいへん喜んでもら

中国より中学生来たる

西陵中PTA 平尾 孝 見

西陵中では、かねてより交流のあった、中国天津市の第二南開中の生徒4名を含む一行7名を、西陵中学生徒との交流を目的に、昨年の十一月にお迎えしました。

両校の生徒は、思ったより早く打ち解け、親交を温め合っただようでした。

訪日団一行は、文化祭やリクレーションなど西陵中での交流のほか、市役所への表敬訪問や小山田記念温泉病院、水沢茶農協を見学しました。

この行事にご協力下さいませ



青山里会訪問

初期消火に防火用水

副自治会長 森川 紀 生

鹿間町自主防災隊(隊員三十三人)はこのほど万が一の火災に備え、町内二十四カ所に防火用水のドラム缶を置きました。

隊員が赤ペンキでドラム缶一本に「防火用水」と書き、消防車が着くまで近くの人々による初期消火に役立てます。



ています。聞く楽しみ・見る楽しみ・食べる楽しみで一日が本当にあつという間に過ぎてしまいます。

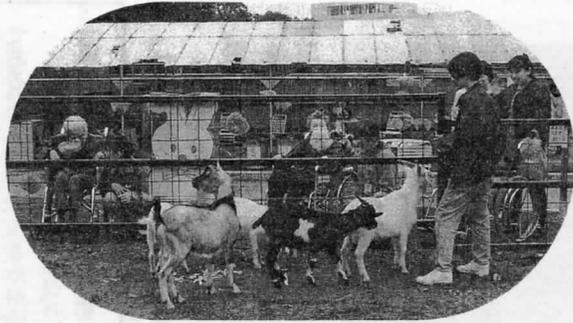
おやまだ

動物とのふれあいは心のやすらぎ

青山里会 石田 一晃

小山田施設群には、馬や羊、ヤギをはじめ、いろんな動物たちがいることをご存じですか。

動物たちは、接することで、心のやすらぎ、生命の尊さ、生きるよろこび、思いやりや優しさなどを私たち人間に感受させてくれます。青山里会では、これらの動物たちが働きかけてくれる作用を、アニマルセラピー（動物療法）として、利用者の方々のケアに取り入れています。



父と子のワイルドクッキング

小山田小PTA
畠田久美子



昨年六月、小山田小学校で、父と子の親子クッキングが行われ、たくさんのお父さん（母）の参加があり私たち親子も参加しました。メニューはドライカレーとサラダ、短時間で材料のみじん切り、調味料の

計量、調理と皆さん手ぎわ良く作ることが出来ました。味はもちろん美味しく楽しい一日でした。お父さん一度参加して腕ふるってみませんか。

造営された美里神社

自治会長 津田 野



美里町は戦後生まれた小さな町です。先人たちが古い社をもらい受け、農の神である豊受大神をお祀りした。

そして元旦は全員初詣に集い、平和と豊穰を祈願し、秋には豊作の喜びと感謝を込めて、大祭を執り行って来ました。四十数年の歳月に社は崩壊寸前となり、平成五年町民の浄財を募りました。その後平成七年完成し、秋には無事新神社にて大祭を行いました。

納涼将棋大会

将棋クラブ代表
長田 一郎



有志により市民センターの協力で将棋大会を開催しました。センターの「お知らせ」で募集したり、口こみで誘い合って十三人集まりました。初めてでしたが和気あいあいのうちに楽しい一日が過ぎました。これからも年二回大会を開きますので興味のある方はぜひ参加して下さい。

西山町盆踊り

自治会長 矢田 正彦

毎年、夏休みの楽しみの中の行事の一つとして盆踊りが有ります。以前は子供会主催で行っていましたが、十年前より自治会も共催となり、地区民全員が参加して盛大になってきました。特に民謡会が中心と願っています。



盛大な盆踊り大会

手作り玩具の紹介

六名美里慶寿会 椎名 清信



恒例の小山田温泉祭り行事の協賛として、毎年老人会の会長さん方による、身近にある竹で出来る玩具の作り方を紹介しているコーナーです。

中でも竹とんぼは大人気です。自分で苦労して作った竹とんぼが高く飛ぶのは素敵です。

是非一度体験してみれば、いかがでしょうか。

歴史探訪

②

分村合併して四十年

鹿間町の生いたち



鹿間町 萩 伸 元

とき、昭和三十一年九月一日、鈴鹿郡久間田村議会は椿村との合併を六対五で議決。

三十日には町村合併促進法により、「三鈴村」が発足する

矢先の六日、四日市市へ合併を希望する村議会議員五名が辞表を出しました。

【決議抗議区民大会】

故岸本利通・鹿間区長（百五十四戸）は議決に抗議、九月十二日午前九時から、青年団クラブに白鉢巻きに日の丸の小旗を手に、子供連れの婦人や腰弁当の区民三百五十三人が集まり、四日市への分村合併を議決し決起区民大会で氣勢を上げました。

【合併絶対反対デモ】

この日、「専制政治を反省せよ」、「住民の意志を尊重せよ」などを書いたムシロ旗やプラカードを掲げ、オート三輪二台を先頭に分村合併の歌（聞け良識の村人よ、我らの希望は変わりなく...）とスピーカーで流し、メーデー調で歌

いながら村内をデモ行進。午後四時、大会決議文を村役場の故石田利生収入役に手渡しで解散しました。

【ストや機動隊出動】

一方、三重県庁玄関では、決死ハンガーストライキを、村議会開会中は賛否両派の約六百人が議場を取り囲み、県警察機動隊も出動して警備。

村議会は、四日市にゆくもやむをえずとし、三鈴村から鹿間区の分村が認められませんでした。

【晴れて四日市市民】

翌三十二年四月、念願の四日市市民として小山田地区に編入、今年でちょうど四十年の節目を迎えました。学童のバス通学など心残りもありますが、鹿間区が一丸となり、勇気ある行動を考え合わせると、苦難を乗り越え信念を貫き通した心意気は、歳月と共に忘れられようとしていきます。

明治は遠くなりにけりというが、その道程は絶えず今にも続いている。

一世紀前の明治元年、戊辰戦争の内乱（王政復古）により、長く続いた泰平の世は、内外から押し寄せる渦潮に吞まれて戦場に遭った。

国内での戦いは慶長の役・大阪の役・島原の乱を最後に大きな戦いはなくなり、戦争を知らない平和の世が続いたが、その夢は破られてしまった。庶民の集落では、阿鼻叫喚さながらの生き地獄そのものであったと、裏面史には記されている。

こうした秘話は、町文書として今日に伝えられているのである。この見えない犠牲により、鎖国から目覚めて、明治維新

【輝く鹿間の歴史に】

末代まで続く区民の決断は輝かしい鹿間の歴史として、先駆者の苦勞をしのび、長く語り継ぎたいものです。

当時、三鈴村議会議長だった磯部久慶氏（鹿間）は、分村合併に尽力されたことを付記します。

【参考文献】

『朝日新聞』

『毎日新聞』昭和三十一年

九月十三日朝刊 『三重県町村合併誌』三重県

を迎えることになった。しかし、その後も戦火は続き拡大していくのであった。

その主な事変を辿ってみると、戊辰戦争・西南の役・日清戦争・日露戦争・第一次世界大戦・満州事変・日中戦争・



西山町郷土史研究会 代表 三 橋 洋

『小山田地区戦没者名簿』

について想うこと

ために、戦争の被害と犠牲を繰り返さないためにこそ、歴史認識として正しく学ぶことが求められるのである。

小山田地区戦没者名簿を調べてみると、戊辰戦争から今次大戦に至るまでに、百六十

三柱が戦没者として尊い命を失っている。何といっても多くの人命を失ったのが、第二次世界大戦（太平洋戦争）である。

英霊への慰霊であるが、日露戦争に戦死した英霊に対し、

戦国時代、六名町の中央の小高い丘に、乗竹城お築き城主乗竹ノ守を名乗り、家来

珍しい石塚

六名町 田中弘治郎



（乾倉）幾十人を持つ豪族がありました。広い区域で羽振りを利かせておりました。家来を連れて領内（縄張り内）を見廻りの内には、他領の方々との争いも絶えませんでした。犠牲者が出た場合には、その人の故郷へ形見の品々を送り、戦功のようを詳細に記して通知を為し、亡骸は近くの場所に埋葬しました。これが石塚だと、昔から言い伝えられております。

その石塚は、小さい石ばかり集めてあるのです。小石の盛り上げ方法は、ただ小石を

積み上げたものでなく、尖った方を上へ向けた手の込んだ工法で、珍しい積み方ですが、何の為にこんな事をしたか、事由はわかりませんが、長い年月が経っておりますが、高さ五十センチメートル、巾一メートル程の大きさです。このような石塚は、小山田記念温泉病院の南側に六名町字中山という地内に、数多く散在しておりましたが、昭和三十年頃、三重県の開発事業で無くなりましたことは残念なことです。現存しております。

村で慰霊祭をした記録があるが、今では考えられない荘厳なものであることがわかる。今ではそうしたことはできない状況であるが、せめて戦場に散った英霊に報いるためにも、今日の平和の碑を大切に護る使命がある。また、今も、この戦争体験をされ帰還してこられた方々が居られるが、戦争を知らない世代に、戦争の語り部として、戦争の実態を伝えていただきたいのである。郷土史研究会が、こうした現代史に目を向けて取材してみることは、戦争を深く反省し、再びかかる惨劇を起こさぬよう、非命に倒れた人々への供養としたためである。

今回、青少年育成部初めての県外視察研修が実現し「奈良少年院」に訪問することが出来ました。市民センターの皆様や、地区社協の役員の皆様のご協力を深く感謝いたします。

今、四日市市内でも青少年にとって危険な状態で、テレクラ・ツーショット・いじめ・恐喝・覚せい剤等、誘惑がいっぱいです。私は市内の繁華街を巡回・補導してよく思うのですが、小山田地区の皆様が本当に安心していいのにかと？
不幸にして誤って少年院にこの少年たちは、どんな気持ち

偏見や差別の目をなくそう

山田町 矢田 真知子

今回、視察に参加して建物のイメージがとても良かったことや、個々の部屋がきれいだったこと、個人を大切にしていることが大変良かったと思いました。また、作業中や運動中の少年たちを見学し、目を合わさないうえに思いながら覗いていると、逆に少年たちの方が笑いながら明るく、見学者を見ていました。

でいるのか？

どんな事情で、道を誤ってしまったのか？

少年院の中で、少年たちは何を考えているのか？

うちの子に限って…

今一度確認を
青少年育成部長
中村 實

いけばいいのか？

等々を、まず部員一人一人の目で見て確かめ、小山田地区は青少年にとって、四日市市内でも一番安心出来る地区でもあります。が、「うちの子に限って」と言っていられない

その時に、私たちが教えられ育った時代と違ってきていることや、テレビで放送される場面は、あまりにも暗く、悪い印象を与えられていることを感じました。

私自身も、心の中に差別的な思いを持ってしまいがちですが、これからは今回の視察で知ったことを忘れずにいたいと思います。

また、今回視察に参加された人々たちも、少しずつ好意を持っていかれたら、子供たちの中に浸透し、差別の目が少なくなっていくのではないのでしょうか。

今回は、少年院を自分の目で見る機会に恵まれ、今まで

ことを感じてもらい、子供を持つ親として、青少年を守る大人として、今一度考えてもらったら、視察研修を進めたかいがあつたと思います。今後も青少年育成部の活動を通じて、青少年が誘惑に負けないように努力していきたいと思っております。



奈良少年院を訪ねて

社協・青少年育成部

のイメージを変えることができました。良い機会をありがとうございました。

気配りのある育成を

小山町 小林 秀二

当初、奈良少年院視察は気乗りのしない行事でした。

少年院というところがか暗くて重苦しいイメージがあつて、できれば関わり合いたくない所という先入観があつたのです。しかし実際に行ってみるとそうでない



いことがわかりました。静かな環境や近代的な施設への驚き、そして社会復帰の為の真剣な取り組み、周囲のなんとか更生してほしいとの切実なる

いこと、くやしいこと、寂しいこと、いろいろあつたことでしょう。その結果、あなたたちの選んだ道は、世の中に背を向けて生きる事だったのでしよう。私はこの少年院

少年たちの更生を願って

山田町 矢田 恵子

の中で、私たちに説明してくださった職員の方々の言葉の中に、我が子を思いやる父親のような温かさを感じました。

きっと、あなたたちにも伝わることでしよう。ここでの生活を無駄にしないでください。でも、温かさ、優しさの

信念を強烈に感じました。過去になんらかの選択の誤りによって現在の結果があるのですから、その原因を良く考えて将来立派に立ち直ってほしいと祈るばかりです。そこには特別な少年が入っている訳ではなく、身近な子供たちでも何らかの決断の誤り、周囲の指導方向の誤りでいつどの様になるかわからないものだと思います。

単に自分たちには関係ないというのではなく、日頃から子供たちへの細心の気配り、それと何よりも私たち大人の健全な生活姿勢が必要だと感じました。

中で生活ばかりではありません。ここを出れば、また同じ環境が待っています。負けないでください。あなたたちには将来があります。ここで生活を一つの良い経験として、生きてほしいと思います。

最後に、子供を持つ親として、子育ての難しさを感じました。生まれた時は同じスタートラインの子供たち、親の無責任な行動でゆがませることのないよう、温かく見守ってあげたいと思ひながら、少年院を後にしました。

少年院を出られた少年たちが、一人でも多く更生されますことを、祈らせていただきます。と思います。

一月十五日、今年も三十三間堂の「通し矢」大会に行ってきました。弓道人にとっては、成人の日のこの大会で一年が始まります。

この人尋ね

弓道歴四分の一世紀

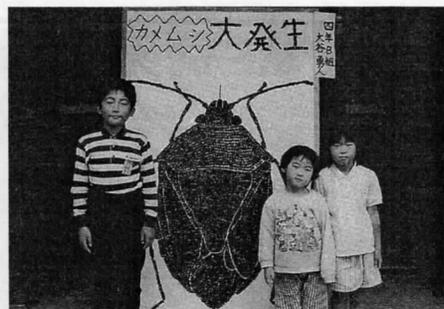
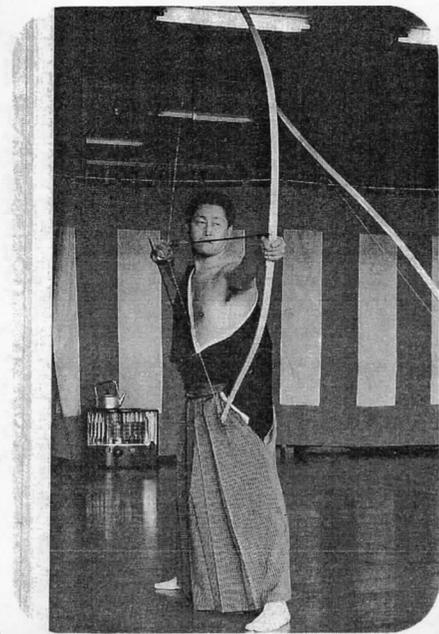
和無田町 諸井達臣さん
(全日本弓道連盟 教士六段)

私の弓道歴は、早いもので本年で二十七年目になります。途中、仕事の関係で他の競技をした事もありましたが、約四分の一世紀は弓にかかわっています。これまで良き恩師、先輩などに恵まれ、インターハイ、

国体など全国大会に出場させて頂き、各地に弓友が多くできました。また、いい思い出を残すことができ、現在の自分の財産となっています。

弓道(和弓)は、残念ながら一般にはなじみが薄く、マナーな競技です。しかし、年齢・性別・体力に関係無く、誰もが慣れ親しむことができます。重心を丹田(下腹)に置き、呼吸を整えることで精神を安定させ、集中力を高めて弓を引きます。

ストレスの多い現代社会において、短い時間でも日常の種々の事柄から開放され、静寂な雰囲気の中で自分をみつめることができるというのは、たいへん貴重だと思います。現在、桑名工業高校で弓道部の顧問として、生徒や弓道教室の受講生に指導をしています。



カメラでステキなアート!

小山田小四年生の大谷勇人君(小山町)は、今年ちょっとした有名人になりました。というのは、夏休みの自由研究にカメラ虫を使って、自分の背丈ほどもある大カメラ虫の絵を制作したからです。使ったカメラ虫の数は何と七千四百三十三匹。カメラ虫の顔や手足、背中など三種類のカメラ虫を使い、ボンドで一匹一匹ていねいにはりつけました。その出来上りは、まさに芸術品です。

作品の素晴しさは各新聞や雑誌、CTVなどでも紹介され、聞くところによると「タモリのジャングルテレビ」からも出演依頼があったとか。暑い夏休み、カメラ虫との八日間の格闘、本当にご苦労さまでした。勇人君!

文芸らん

川柳

- 万歩計つけて若さへすがりつく
- 職退いても運勢欄を読んでいる
- 山田町 清水延和
- おはようと今日が始まる幕が開く
- 希望持つ年へてっかい鏡餅
- 病院をやさしく包む鈴鹿山
- 山田町 矢田まさ子
- 登校のベタルリズムの風に乗る
- ナツメロに乗ったビール旨いこと
- 新聞を横目で読んだ二人掛け
- 秋風や木の葉が蝶のように乗る
- 鹿間町 酒井三春
- 告白をしないままカードゼロになり
- りんご買い絵を書く前に食べられた
- 小山田苑 竹中三恵

俳句

- 愚痴聞いてくれる子もなき端居かな
- 行く夏を鳴いて短かき蝉しぐれ
- 人住まぬ庭にもコスモス咲き乱れ
- 朝露や茄子も胡瓜も臍まがり
- 鹿間町 酒井三春
- 人住まぬ庭に寂しく彼岸花
- すり虫に腕をすられて柿一つ
- 猫がきて話ふえたり日向ぼこ
- 庭さきて抹茶いたたく梅雨の昼
- 帰る人明日の約束日向ぼこ
- 六名町 田中弘治郎

短歌

- 暑き日の夕暮れ近く水をやる畠の花に語りかけつつ
- 草むらに落ちたる蝉を手を取ればみちかく鳴きて飛ぶ力なく
- 何を買ふあての無けれど子のくれし小遣ひ持ちてデパート巡る
- 足早き少年の目は輝けりオリンピックまでわすれかとなりて
- 鹿間町 酒井三春



●じんちょうげ

地区の人口

(平成九年一月一日現在)

町名	世帯数	人口		合計
		男	女	
山田町 (内老人ホーム)	964 (467)	888 (117)	1,209 (361)	2,097 (478)
鹿間町	272	436	469	905
西山町	190	330	367	697
小山町	150	300	294	594
堂ヶ山町	116	232	247	479
和無田町	103	198	195	393
内山町	59	98	115	213
六名町	49	96	88	184
美里町	46	116	117	233
合計	1,949	2,694	3,101	5,795

編集後記

雪が多く、寒かった今年の冬もあと少し…春の訪れが待ち遠しいこの頃です。地区広報「おやまだ」(第17号)をお届けします。今回は、生きがいをテーマに特集を組みました。また、地域のさまざまな様子を皆様にお届けしたいと、広報部員一同、苦心を重ねました。

ご寄稿いただきました方々に、厚くお礼申し上げます。文化広報部長 矢田 哲